

会議の設置趣旨

1. JR古賀駅周辺地区を取り巻く状況

(1) 整備の経緯

1890年には九州鉄道会社(現JR九州)が古賀駅など現在の主要な駅を建設し鹿児島本線を開通させたことにより駅周辺に工場等の立地が進んできた。併せて、古賀駅西口側に商業が集積し、商店街が形成され、市の中心市街地として発展してきた。

一方で古賀駅東口はこれまで駅前にニビシ醤油株式会社が立地しており、市街地の開発が行われてこなかったが、令和元年、ニビシ醤油株式会社とまちづくりの検討に関する協力協定を締結し、官民連携のなかで古賀駅東口周辺についてまちづくりの検討を進めている。

2. JR古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画(仮称)について

近年、福岡都市圏におけるJR沿線上の駅前周辺は新宮町や福津市など近隣自治体において開発が進められており、JR古賀駅周辺においても、土地の高度利用(開発)への期待が高まっている。

一方で、まちづくりのビジョンを考えるとなく無秩序な開発がなされれば、駅前の魅力の低下だけではなく、都市機能が低下し、中心市街地からの人口流出という負のスパイラルを招く恐れがある。

「JR古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画(仮称)」は、これまで検討されてきた古賀駅東口周辺地区開発構想に基づき、目指す方向性や整備の実現に向けたコンセプト、整備エリアや土地利用方針を整理し、市民に広く示していくため策定に向けた調整を行っているところである。

3. JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画(仮称)について

今後、古賀駅東口周辺地区の開発を行っていくにあたり、まずは道路や公園などの基盤となる公共施設の整備について検討を進める必要がある。

このため、土地利用方針や整備コンセプトなどを示した「JR古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画(仮称)」に基づき、都市基盤の整備方針について具体的な整備内容を示す「整備基本計画」を策定する。

「整備基本計画」は、街の玄関口である古賀駅東口周辺地区、特に駅前広場や周辺道路などの都市基盤を中心に、その整備イメージを市民と行政とが共有することを目的として策定

するものとする。

4. 策定会議について

具体的な整備内容の検討に当たり、有識者や公共交通機関、地権者としてご協力いただいているニビシ醤油(株)、地元の関係団体の代表者に加えて、社会情勢の変化などにより政策的な部分や技術的な部分における視点を交えて意見交換をいただくため、今回、国土交通省九州地方整備局やUR都市機構の方々などにも委員としてご協力いただいている。

5. 整備検討エリアについて

将来、JR古賀駅東西の全体を見据えた整備を検討していくこととなるが、本会議では面的な整備を行う古賀駅東口周辺地区について、原則として都市基盤の整備を中心に検討する。なお、検討途中において新たな開発の動向や協力があった場合は、それらを踏まえつつ、整備検討エリアは適宜見直していくものとする。

◎JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画(仮称)の位置付け

- JR古賀駅東口周辺地区開発構想(令和元年度)
- JR古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画(仮称)(令和2年度策定予定)
- JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画(仮称)(令和3年度策定予定 本年度から検討)

